



「志望理由書」と「自己推薦書」に共通する例

**×** 志望校のパンフレットやホームページに書いてあることを、丸写ししている。

→ **○** 自分の言葉で書く。

志望校のパンフレットやホームページに書いてある文章の丸写しや、つなぎ合わせたような表現は、試験官にはすぐにわかります。引用程度にとどめ、自分の言葉で表現しましょう。

**×** 自分について事実ではないことを書いている。

→ **○** 実際の自分の考えや経験にもとづいたことを書く。

例えば、興味がないのに「英語に興味がある」など、こう書いたほうがよい印象を与えるだろうと思って事実ではないことを書いても、中身が伴っていないければ、面接で見抜かれてしまいます。実際に自分自身で考えたこと、体験したことを書きましょう。

**×** 志望校について間違った情報を書いている。

→ **○** 確実なことを書く。

志望先の教育内容、特に入学してからやりたいことは、「それはこの学校ではできない」と試験官から言われないように、情報をしっかり集めて、正確に把握しておくことが大切です。

**×** エピソードをいくつも挙げている。

→ **○** 1つか2つに絞る。

根拠としてエピソードを挙げる時、多くの体験が思い浮かぶかもしれませんが、1つか2つくらいに絞り、より具体的に説明しましょう。エピソードが多く挙がっていると、1つひとつの印象が薄くなってしまいます。

**×** 「進学後は遊びたい」「アルバイトに力を入れる」など、学業を無視するような表現。

→ **○** 学業を第一に考える。

学生にとって、第一の目的は学業です。しかし、アルバイトやボランティア活動、サークル活動など、学生にとって大切な経験は学業以外にも存在します。それらについて述べたい時は、あくまでも学業をメインとし、勉学に支障が出ない範囲にとどめる内容にしましょう。

**×** 取り上げるエピソードに対して消極的な見方をしている。

→ **○** 失敗や挫折の体験をプラスに捉える。

例えば、仲間はずれにされた経験があったとして、そのエピソードについて「悲しかった」で終わらせないようにします。そこから「人の気持ちがわかるようになった」など、克服して自分がどのように成長したかを伝えると、とても説得力があるものになります。

**×** 「勉強についていけるか心配」など、不安を述べている。

→ **○** 前向きな姿勢で、期待していることを書く。

誰にでも将来への不安はあるものです。しかし、不安な気持ちをそのまま書いてしまっては、「入学したい」というあなたの意欲を試験官に伝えることはできません。将来の自分の姿を前向きに捉えて、期待していることや、頑張ろうという意欲について書きましょう。

## 「志望理由書」の例

### ✕ 志望理由の中心が、「就職に有利だから」など現実的なものになっている。

#### ➔ ○ 学びたいこと、挑戦したいことを中心におく。

「資格が取れるから」「就職の実績が高いから」など、あまりに現実的な内容を志望理由の中心においては、試験官により印象は与えません。志望理由の中心は、志望校で学びたいこと、在学中に挑戦したいこととし、そのほかの理由は添える程度にしておきましょう。また、学校で学びたいことが将来の職業にどうつながって、そして職業に就いてから何をしたいか、さらに、職業を通して得られるやりがいまで述べることで説得力が増します。

### ✕ 「業界に大革命を起こしたい」など、漠然とした夢。

#### ➔ ○ 実現可能で具体的なものに。

夢を持つことは大事なことですが、「世界平和を実現したい」など、あまりに漠然とした、現実感のない話を展開することは避けたほうがよいです。自分自身で実現させるための具体的な方法を述べないことには、説得力のある文章にはなりません。夢に向かって今努力していることや、今から取り組んでいきたいことを具体的に書けるようなものを取り上げましょう。

### ✕ 「家から通えるので」など、学業と関係のない理由や、受動的・消極的な理由。

#### ➔ ○ 意欲、熱意の伝わる前向きな理由を挙げる。

「志望理由書」は、入学したいという意欲、熱意を表現しなければなりません。「理数系が苦手なので文系を」「親に勧められたので」などのように、消極的、受動的であったり、学業と関係のない理由はマイナスの印象を試験官に与えてしまいます。カリキュラムや教育方針、設備、学風などから、魅力を感じた点を前向きな視点で述べましょう。

## 「自己推薦書」の例

### ✕ 「アピールポイントといってもたいしたことはないが」など、消極的で自信のない表現。

#### ➔ ○ 堂々とアピールする。

「できるかどうか自信がないが」など、謙虚になりすぎて、自信のないような書き方は、消極的で曖昧な印象を与えてしまいます。実力以上のことを書いて、立派に見せようと背伸びをするのもよくありませんが、自分ではたいしたことがないと思えることでも、自信を持って述べる姿勢が必要です。

### ✕ 「自分の性格により面はまったくくない」など、否定的な表現。

#### ➔ ○ 視点を変え、プラスに捉える。

「自分を推薦できる部分はない」「高校時代は特に何もしなかった」など否定的な内容では、その学校で学びたいという意欲が伝わらないばかりか、試験官にマイナスの印象を与えてしまいます。「自己推薦書」は、自分をアピールするものです。「何もない」という否定的な見方をやめて、違う視点から眺めてプラス面を見つけていくことが大切です。

### ✕ 「長所」を裏付ける「根拠」が述べられていない。

#### ➔ ○ なぜそう思うのかという「根拠」となる具体的事実を挙げる。

単に長所を挙げただけでは、試験官を納得させることはできません。どんなに小さなことでも、根拠となる具体的なエピソードを示すことで、説得力を持たせることができます。具体的な体験を書くことは、試験官への印象を強めます。